



図書館報

三刀屋高校
図書委員会

成瀬は一体どんな子にしている？

〜成瀬信者による「三部作」の一考察〜

校長 岡 秀 樹

私たちは、日々妥協しつつ生きていく。いや、妥協と言うと語弊があるかな。大人になるにつれて、空気を読みながら生きる術を身につけるようになる。悪目立ちするのはあまり得にならないことを知っているからだ。例えば、校歌を歌う時。一人だけ大声を出して歌う生徒を高校で見かけることはない。誰もが目立たないようにと考えるから、自ずと声量は小さくなっていく。

こんな場面で、一人だけ高らかに校歌を熱唱する生徒、それが主人公・成瀬あかりだ。実際の小説の中でこんな場面はなく、あくまで私のイメージだが、おそらく彼女なら「校歌を歌うことになっていくから歌ったまでだ。それに、大声を出すのは健康にいいからな。二百歳まで生きるにはこのくらい

当然だ」と涼しい顔で言うに違いない。「成瀬三部作」には、こんなエピソードが次々と登場する。彼女は自分の生き方を迷いなく貫いているだけなのだが、空気を読むことをしないので周囲の人々にとって成瀬の第一印象は違和感からスタートする。しかし、そのピュアで一途な姿に接しているうちに、いつの間にか彼女の魅力に惹かれ、存在を受け入れていくのである。

例えば、『成瀬は信じた道をいく』（第二作）の「コンビーフはうまい」がこの典型パターンだ。視点人物の篠原かれんは、スマホを持っていない成瀬を「想像以上にやばい奴」と最初は拒否反応を示す。しかし、この二人がびわ湖大津観光大使となり、ともに頑張っていく中で理解し合い「成瀬、あんた最高に映えてるよ」という賛辞を贈るまでになるのである。この痛快さこそが、この小説の大きな魅力である。また、成瀬には恋愛に疎いという愛すべき一面もあるのだが、それは

『成瀬は天下を取りに行く』（第一作）の「レッツゴーミシガン」で描かれる。還暦の私がキユンとするくらいだから、高校生の皆さんがしないわけがない。他校の男子生徒から淡い恋の告白を受け、成瀬が「わたしのどこに惹かれたのか教えてくれないか」と返す場面は、三部作の中でも屈指の名シーンと言ってよいだろう。

成瀬あかりは架空の存在であるが、私の中でどうしてもイメージがダブる人物がいる。それは、「新しい学校のリーダーズ」のSUZUKAだ。紅白歌合戦という晴れ舞台に眉毛全剃りで登場した彼女のブツ飛んだ姿は、坊主頭で高校の入学式に現れた成瀬の奇行と重なる。もし「成瀬三部作」が実写化されるとしたら、成瀬あかりを演ずるのはSUZUKAを描いて他にいない、彼女こそリアル成瀬だ、と強く主張しておきたい。

という戯言はさておき、この原稿を書いている現在、『成瀬は都を駆け抜ける』（第三作）は売上ランキング一位であり、シリーズ累計発行部数が二百万部突破という令和の大ベストセラーである。この青春小説がここまで支持されるのはなぜだろう？

それは成瀬が「魔法使い」だからで

はないだろうか。成瀬は一度見たものはすべて記憶に残るといい、京都大学に入るほど学習成績も抜群である。しかし、私の考える「魔法」はそこではない。周りからどう見られようが信じたい道を愚直に貫き続ける姿勢、それが「魔法」なのである。

なぜなら、大人になって空気を読まずにいることは、とても難しいからだ。例えば、幼稚園のころは誰もが園歌を熱唱していたはずなのに、高校生になると冒頭に述べたような光景が展開するように。そして「魔法使い」の成瀬に誰もが共感し快哉を叫ぶのは、きっと私たちの心のどこかに「成瀬的なもの」が残っているからなのだろう。成瀬は自分の心の中にいる。

まずはこの青春小説を手にとって読んでみなさい。そして、読み終わったら校長室を訪ねてきて欲しい。短時間でもいいので、この小説について語り合おう。
待っています。

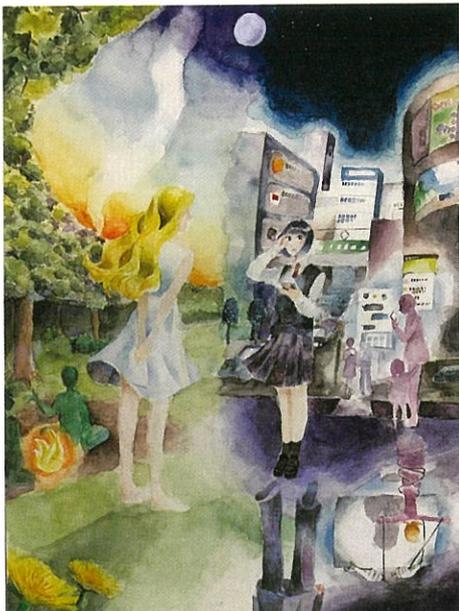


読書感想画コンクール

「幸せ」の意味

二年四組 常松 優

「あなた幸福？」という主人公への問いかけは、読み手である私たちへのものでも感じました。本の中でメディアに支配される人々の姿は、現代に生きる私たちと重なる部分がありました。瞬間的な幸福に流されず、自ら考えることの大切さに気付かされ、画面右側には情報で溢れる現代社会と、同じ問いを向けられる私たちの姿を表現しました。画面や炎を光っているように見せるのが難しかったです。第37回読書感想画島根県コンクール 優良賞



『華氏451度』

レイ・ブラッドベリ著

伊藤典夫訳

早川書房

再会

一年三組 永海 陽菜

市川卓司さんの『こんなにも優しい、世界の終わりが来た』を題材に、男の人が愛する女の人に会いに行く場面を描きました。男の人が女の人を愛しそうに見つめている様子がわかるように頭に手を添えさせました。写真は女の人が持っているもので、ネックレスは、男の人が女の人の誕生日に渡そうとしていたものです。後ろの木や草の葉を特に頑張って描きました。



『こんなにも優しい、世界の終わりが来た』

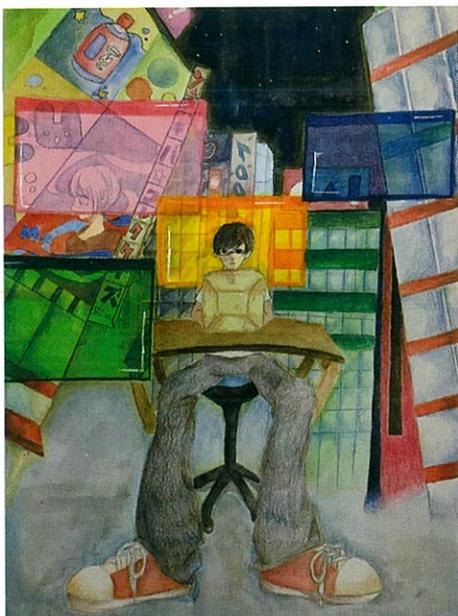
市川拓司著

小学館

現実と@のあいだ

一年一組 横山 瑞季

石田衣良の『アキハバラ@DEEP』を題材に、現実世界とネット空間のはざままで生きる主人公の姿を描きました。雑多で鮮やかなアキハバラの風景やネット掲示板のコメントの部分の色を塗り分けた所などが特に苦労しました。また、中央の人物は様々な不安を抱えながらも自分の居場所を探し続け、現実と@のあいだで揺れる心情を表現しました。



『アキハバラ@DEEP』

石田衣良著

文藝春秋

私と図書館

私と本

楽しい図書館

二年三組 松 田 華千代

図書館はとても楽しい場所です！宣伝すぎるでしょと思いましたが？私実際、楽しみを求めてほぼ毎日図書館へ足を運んでいます。

個人的に図書館について一番楽しいのは、司書さんとお喋りしている時間です。私のテキトーな話にテキトーに答えてくださるステキな司書さんです。皆さんも仲良くしていると何か良いことがあるかもしれませんよ。

図書館に来る目的は人それぞれだと思いますが、落ち着く場所だということとは皆共通なのではないかと私は思います。カードゲームにボードゲーム、漫画にミッケもあります。自分なりの楽しみを見つけるのも図書館の楽しみの一つと言えるでしょう。

ぜひ図書館に足を運び、一息ついてみてください。

図書館

一年二組 藤 原 侑 子

私はほぼ毎日図書館に行っています。図書館では、本を借りるだけでなく、勉強をしたり、本を読んだり、友達と話したりと、いろいろな楽しみ方があります。

ります。また、図書館にはトランプやボードゲーム、けん玉などもあり、自由に遊ぶことができます。

私は最初、友達とトランプをするために図書館に行っていました。司書さんにおすすめてもらった本を読んだり、自分から本を選んで借りたりするうちに、本をたくさん借りるようになりました。

あまり図書館に行かない人や読書が苦手な人も、ぜひ気軽に足を運んでみてください。

ビブリオバトル参加報告

十二月十三日に島根県立大学松江キャンパスで行われたビブリオバトル島根県大会に二年生の遠藤睦希さんが参加しました。

遠藤さんは「本を守るうとする猫の話」を紹介し、物語の魅力を堂々と聴衆に伝えました。惜しくも入賞は逃しましたが、他校の発表からも刺激を受け、充実した時間を過ごすことができました。温かい応援ありがとうございました。



当日の発表原稿

突然ですが、皆さんは本を心から愛していますか？本の存在意義とは、そして本の力とは一体何でしょうか？

今日私が紹介する本は、医師であり小説家であり「神様のカルテ」の作者としても知られる夏川草介さんの「本を守るうとする猫の話」です。この本は2017年に出版され、世界40カ国以上で翻訳出版され続けているロングセラーです。

まずタイトルにも表紙にもある「猫」…気になりますよね？

でも主人公は猫ではなく、一人の孤独な男子高校生です。ある日突然祖父を亡くし、たったひとりで生前祖父が営んでいた古書店に住んでいる彼の前に一匹の猫が現れたことで、この主人公と一緒に「本を救う」冒険に出ることになります。そして4つの迷宮を乗り越える中で、本や言葉の持つ力に改めて気づき、人間としても大きく成長していくというお話です。

まず第1の迷宮で待っていたのは「本を閉じ込める者」、第2の迷宮で待っていたのは「本を切り刻む者」、第3の迷宮で待っていたのは「本を売りさばく者」、そして最後の迷宮で待っていたのは「2千年近い時の壁を越え、2千以上の言語の壁を越えてきた本の化身である初老の女」。それぞれが問いかけてくる正しさや本の存在意義について対話することを通して、主人公は本を読むことの意味と喜びを見出していきます。その答えが何であるかは、ぜひこの本を手にとって確かめてみてください。

かめてみてください。

この本を読みながら、私自身ある体験を思い出していました。私の通っていた中学校では年度末に図書館の貸出冊数上位者が貼り出されていたのですが、ここに入るために、とにかく沢山借りて、急いで読んで返却してを繰り返していました。私はいつの間にか「量を競うこと」や「早く読むこと」などの迷宮に迷い込み、本の、読書の存在意義を薄めてしまっていたのです。でも、この本を読んで、主人公と試練に挑み、彼の成長を追体験することで、私の中にあつた「偽りの正義」に気づくことができました。そして、この冒険は私に改めて本や読書の「価値」や「すばらしさ」を考えさせてくれたのです。

この本は単なるファンタジーではありません。私たちが普段手にしている「本」という存在の尊さを、改めて考えさせてくれる物語です。今日ここにいらつしやるのは本が好きな方々がほとんどだと思います。本が好きな人なら、この物語に絶対に共感できる。もっと沢山の本に触れ、感じ、没入し、楽しみたくてたまらなくなってしまう。それだけでなく、もしかしたら私達の中に巣食っているかもしれない偽りの正義から救い出してくれるかもしれない。そんな、本好きのための最高の一冊なんです！「本を守るうとする猫の話」を読んだことがある人もない人も、何度かこの本を読んで、主人公と一緒に、あなたの「読書人生」をさらに燃え上がらせる冒険に出てください。是非手に取って読んでみてください。

図書委員の活動より

図書委員になったきつかけ

前期委員長 勝平翔大

僕が図書委員になろうとしたきつかけは、本をいろんな人に好きになってほしいからです。

小中学校のときも図書委員になろうとしたのですが、それはただ本が好きだからでした。小中学校のときは近くで小説を読んでいた人が多かったのですが、高校では近くで本を読んでいる人があまりいないので高校からはいろんな人に本を読んでもらうために図書委員になろうと思いました。

それを達成するためにも図書館でイベントを開催してそもそも図書館にこない人に図書館に来るきっかけをつくり、それを機に本を読んでもらえると嬉しいのです。

大好きな図書館

後期委員長 土江優花

私は入学当初から図書館が好きで、お昼休みによく本やマンガを読んだり、借りに行ったりしています。そんな私に図書委員長として活動できたことをとてもうれしく思います。

図書委員の活動の中でも特に、文化祭のイベントが心に残っています。ピブリオバトルや本の紹介コーナーなどに沢山の方々立ち寄ってください、

私だけでなく図書委員全体がやりがいを感じたことと思います。

そして十二月にはクリスマス会があります。このイベントでは、ビンゴゲームや本の読み聞かせなどを行っています。

図書館では本を読むだけでなく、みんなで楽しめるカードゲームやボードゲームなども置いてあります。お昼休みにぜひ立ち寄って楽しんでみてください。読みたい本があれば司書の先生に話してみると、好きなジャンルの本や新しい本に出会えるかもしれませんよ。

すてきな図書館

一年一組 横山瑞季

私はもともと本を読むのが好きで、学校の図書館が落ち着ける場所だと感じていたため、図書委員になりました。静かな空間で本を読んだり、課題に取り組んだりできるところが気に入っています。

学校の図書館には、小説やマンガ、調べ学習に役立つ本など、さまざまな本がそろっています。昼休みや放課後には、集中して過ごせる場所でもあります。実際に利用してみると、思っているより居心地がよく、「少しだけ」のつもりが長くいることもあります。本が好きなのも、あまり来たことがない人も、気軽に利用してみてください。

図書委員として、みなさんが使いやすい図書館になるよう心がけていきます。

図書館のフォトギャラリー



クリスマス会②



クリスマス会①



文化祭

図書貸出状況

(冊)

	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学	産業	芸術	言語	文学	計
1年	0	15	1	16	14	5	4	394	13	235	697
2年	10	10	4	31	30	2	7	63	8	146	311
3年	4	21	3	82	29	23	10	144	33	267	616
計	14	46	8	129	73	30	21	601	54	648	1,624

(令和7年4月~令和8年1月)

生徒一人当たりの貸出冊数3.8冊 (昨年同期間5.1冊)